

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371001559
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋一色の家
訪問調査日	平成 19 年 7 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 9 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371001559
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋一色の家
所在地	名古屋市中川区一色新町2丁目2001 (電話) 052-309-3666

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	平成19年8月9日

【情報提供票より】18年12月6日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 7 人, 非常勤 5 人, 常勤換算4.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	2階建ての 階 ~ 全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円 1ヶ月(39,000円)			

(4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 78歳	最低	66歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口医院・のぎき歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地にあり、近隣の小学生が遊びに来たり、近くの中学校とは運動会や生徒のボランティア活動訪問を受けるなどの交流がある。ホーム側ができるだけ地域の理解を得ることが出来るように様々な努力をしているので、ホームの孤立は見られず利用者は地域の中で安心して外出や日常生活を送ることが出来ている。ホーム管理者・スタッフが入居者の言葉や思いを優しく受け止め、穏やかに毎日の生活を支援することができている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価での改善点については、全職員で話し合い、利用者の部屋間違いを防ぐための工夫として手作りの目印をつけた。また、利用者の行事での様子や利用者や職員の表情を機関紙として季節ごとに出すようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ全員でミーティングを行い、具体的な関わり方を個々に振り返り確認している。またそれを早速ケアに活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの理念や状況報告・外部調査や行事の報告を行い、出席者からの意見や要望をホームの運営や利用者のケアに反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は多い。会話をする中で、要望・思いを受け止めて相談内容記録簿に記入し、ミーティングで話し合っている。その結果を運営や利用者のケアに活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中学生の体験学習の受け入れを積極的に行っている。また、学校の運動会や夏祭り・盆踊りは毎年参加している。買い物や散歩にも出かけ、近隣の人たちとも馴染みになっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしく穏やかで静かな介護をめざします」を理念として穏やかに地域の中で暮らし続けることを支援している。地域の人達も理解を示し、一例として大家さんが、ホームの庭の畑土作りから草取り、手入れ等など協力的である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を、玄関やリビングに掲示し、ホームの理念として入居者に対して穏やかであることを念頭においている。いつも笑い声が絶えない環境づくりをしている。	○	職員全体で理念をさらに具体化して、関わりの振り返りや一人一人に対し意識して取り組まれない。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物で近隣の人たちと挨拶をかわしたり、地域の人達と触れ合う機会が多い。管理者が自治会に挨拶に行くなどして理解を得るように努力している。また、地域の夏祭りや学校の運動会などに利用者と共に積極的に参加している。	○	今後も継続されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、ミーティングで具体的な改善策を話し合い実践につなぐ事が出来ている。例えば個々の居室の目印として折り紙やリースを飾ったり、家族向けのホーム便りを機関紙として季節ごとに出すようになった。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。運営推進会議の意味について理解が進むように努力している。今後も継続して、地域の人達とホーム側と家族とでよりよいホームにしていくことが出来るように計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者からの問い合わせや、担当者の訪問、またホームから出向いたり、つながりは広がっている。担当者で協議しながら取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節ごとに機関紙としてホームたよりを発行し、ホームでの行事などの様子を伝えている。また、家族の訪問時に個々の様子を伝えたり必要に応じて電話で報告をしている。金銭管理は小口現金出納帳に記入、定期的に報告しサインをもらっている。家族の訪問は頻繁である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には言葉かけをしてざっくばらんにいいことを言ってもらえるように雰囲気作りをしている。家族の意見・要望・不満は、家族との会話の中で出たことを相談内容記録簿に記入しミーティングで話し合い、善処できるように努力している。	○	相談内容記録簿の活用方法をスタッフ全員が理解して活用できるようにされたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの常勤者は固定である。なじみのスタッフが対応できることを心がけている。ホームの行事はフローア合同で行っているので入居者もホーム全体のスタッフの顔は知って、馴染んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修の他に、定期的な研修も行っている。研修費補助制度があり、スキルアップのためにスタッフが参加しやすい環境である。人間性を育てる意味でも介護のみでなく広範囲にわたっての研修も積極的に参加できるようにしている。	○	限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないようにパート職員も含めた研修機会を確保できるように運営面での工夫をされたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム分科会に参加し、それぞれのよいところを意見交換しながら取り入れている。同法人グループ内のグループホームの管理者会議でも情報交換している。	○	他事業所との相互訪問を計画しているので、サービスの質の更なる向上に活かしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学をしていただいたり、管理者が自宅に事前訪問をして、本人や家族の話を傾聴して心身の状態やそれぞれの思いを受けとめて、サービスに取り入れることができるようにしている。	○	今後も継続されたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることを尊重してやってもらっている。一緒に出来ることを増やせるように話し合っ(食事の後片付けや畑の手入れ・収穫など)いる。	○	今後もこのような関係を継続出来る様に努力されたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者の言葉や表情から思いを汲み取ることが出来るように努力している。ささやかな要望であっても丁寧に受け止めることで、入居者は安心感を得ることが出来る。困難な場合も、本人の視点にたって丁寧に接している。	○	今度も継続されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プランは、入居者・家族との日常の関わりの中でそれぞれの思いを聞き、その人らしく暮らし続けることができるようにスタッフとカンファレンスを行いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは基本的には3ヶ月に一回。しかし状況変化や問題が生じた場合には関係者と話し合い検討して臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や通院など必要に応じて、その都度必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が一月月に2回往診している。他の病院の受診は基本的には家族対応であるが、ホームに近い時にはスタッフが対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては家庭と同じ感覚である。医療行為が必要であれば入院、長期の入院が必要であれば家族から言わない限り退居は考えない。重度化や終末期の前例はないが、主治医と家族・本人との話し合いをしっかりと持ち、満足してもらおうことができるような援助をしていきたいと考えている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフは入居者の気持ちを尊重して、穏やかな対応を心がけている。個人情報の取り扱いも外部に流出することがないように取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を引き出すことが出来るような働きかけをし、入居者のペースに添って支援をしている。	○	今後このような支援を継続されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫できた野菜が食卓に並んだり、毎日の日課として食事の手伝い・味見など少しずつ関わってもらっている。入居者の自分で食べようとする意欲を尊重して必要以上の食事介助はしないようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間帯で毎日入浴できるように、また入浴を拒否する入居者にはスタッフも一緒に入り、安心して入浴を楽しむことができるように個々の気持ちに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の入居者の得意なことを一緒に行っている。また、季節ごとの行事の準備・喫茶店ツアー・畑の収穫も共に楽しみながら行っている。	○	今後もこのような支援を継続されたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々に言葉を掛け合って散歩や買い物に出かけている。買い物はスタッフと利用者と1対1で出かけている。また、毎月喫茶店ツアーを計画して楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。居室もオープンである。利用者が外出したような様子の際にはさりげなく話しかけて、スタッフが付いて行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、避難訓練を定期的に行っている。地域の避難訓練にも参加して、炊き出しなどにも協力している。	○	運営推進会議でもホームの訓練に協力的な意見が出ている。今後さらなる地域との協力体制を強めていかれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は残量で、水分は飲み残しでチェックしている。その都度チェックした量を記録して夜勤者が合計している。水分・食事・排泄それぞれの記録用のノートを作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間は明るい雰囲気、窓の外には季節を感じることの出来る緑がある。ホーム全体がゆったりとした居心地の良い環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談してできるだけ本人の望みのままの住まいになるように配慮している。		